

02

岡山県地域包括ケアシステム学会にて事例発表

第

1回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会(OCCS)が、平成28年9月11日(日)に川崎医療福祉大学内川崎祐宣記念講堂にて開催されました。本学会の学術大会は通常の医学会とは異なり、先進的な知識や経験を発表することが主目的ではなく、高齢者や障がい者等のケアに関する日常的な問題、小児期からの健康の増進と疾病・障がいの重症化予防、健常者や地域住民を含む街づくりと連携の在り方等について、多職種間で討議し合うことで医療福祉サービスの向上に寄与することが目的です。

記念すべき第1回大会には、800名を超える来場者があり、様々な専門職からの発表を通じて、医師、コメディカル、行政、民間など、様々な立場が共に地域包括ケアシステムの実現に向けた考えを共有することができました。株式会社創心會®からは「一般演題」で2名、「ポスター発表」で8名が事例発表を行いました。

私たちの日頃の取り組みには、ご利用者様・ご家族様はもとより、多くの専門職・関係者との繋がりは大変重要であり、欠かすことの出来ない存在です。大会の参加を通じ、今後も質の高いサービスの継承や、地域連携の実現を目指しています。

03

2016年度電話応対コンクール岡山県大会で入賞しました!

日

本電信電話ユーザ協会主催『電話応対コンクール岡山県大会』が、平成28年10月12日(水)にメルパルク岡山にて開催されました。グループ会社である株式会社ハートスイッチの有井仁美さんが出場し、優秀賞(8位入賞)をいただくことができました。電話応対業務を専門とする出場者が多い中、創心會グループから入賞者が出了ことは大変光栄に感じております。何よりも介護業界のサービス意識の向上のため、このような大会に継続して出場することに意義があると思っております。名誉ある賞をいただき、株式会社創心會®並びにグループ社員一同、今後もより一層接遇への信頼を維持、向上していく所存です。

04

グループホームと五感リハビリ俱楽部茶屋町で合同家族会開催

倉

敷市茶屋町地区にあるグループホーム心からにて、平成28年10月16日(日)、五感リハビリ俱楽部(認知症対応型デイサービス)茶屋町との第1回合同家族会が、開催されました。

当日は、ご利用者様とご家族様、スタッフの合計56名と大勢のご参加をいただきました。和やかな雰囲気の中、手打ちうどんやおでん、お寿司、フルーツポンチを分担して調理。グループ会社である未来創造社と一久オードブルと一緒に作りたての料理を全員で食しました。

食事会の後は、ボランティアグループ「子々の会」様のご協力のもと、民謡・三味線・歌・舞踊の他、輪になって炭坑節を踊るなど大変盛り上りました。今回ご参加いただきましたご家族様からは、「グループホームでの生活の様子がよく分かった」「なかなか一緒に外出できないので、一緒に過ごす時間を作ってもらえて感謝しています」など、温かいお言葉を頂戴しました。今後も運営推進会議等を通じて、包括的に関わらせていただくと共に、認知症の方が住みやすい地域づくりに貢献していきます。



RSKアナウンサー 石田審査委員長(右)
㈱ハートスイッチ 有井仁美さん(左)



PRIDESign powered by Soushinkai 2016 - No57

2016年第57号 平成28年11月1日発行
編集・発行 株式会社 創心會 広報部

株式会社 創心會

岡山県倉敷市茶屋町2102-14 TEL.(086)428-1500 FAX.(086)428-0946 URL:<http://www.soushinkai.com>



11
月号



セラピードッグ ボブちゃん来訪

ダイレクトアプローチで存在意義を確立

01

家庭内役割を築くためのアプローチ

02

岡山県地域包括ケアシステム学会にて発表

04

グループホームと五感リハビリ俱楽部で合同家族会開催

—創心會リハビリ俱楽部®—

03

電話応対コンクール岡山県大会入賞

03

01

家庭内役割を築くためのアプローチ

創心会 リハビリ俱楽部®

人

間が生きていく上で、役割は重要な存在意義になります。役割には大きくわけて、社会的役割、家庭内役割、地域内役割があり、一つでも役割があることでリハビリ意欲や、モチベーションの維持につながります。今回紹介させていたいのは、デイサービス内で行えるダイレクトアプローチによって、ご利用者様(以下、A様)の存在意義を確立していただきたいと考え、A様の家庭内役割に焦点を当てたケアを行った事例です。



利用時間の変更を糸口に、ご利用者様の思いに沿った目標を提案!!

A様はX-1年Y月より、創心会リハビリ俱楽部®(以下、デイサービス)の利用を開始。開始当初の利用時間は「5-7」であったが、同年Y+4ヶ月より「7-9」に変更される。利用時間を延ばされた理由を尋ねたところ、「デイサービス内でもっとトレーニングを行い、出来ることを増やしたい」という思いがあることが分かった。また、A様から「病前には、食器を持って1階から2階へ階段昇降を行うことが出来ていた。しかし、先日行おうとしたら、階段途中で食器を落としてしまい、割ってしまった。以前のように夫に食事を持って行ってあげたり、片づけを行うことが出来なくなった。姑に代わりをしてもらったり、手を借りたりしている。」というお話を聞き、デイサービスでA様の思いに沿ったアプローチを提案、提供できないかと考えた。



- 主疾患 : 高血圧症
- 既往歴 : X-2年 左視床出血、右感覺障害、右1/4半盲 高血圧症・不眠症
- BRS : 上肢STAGE VI(但し、動きは出来るが振戦あり)、手指STAGE III、下肢STAGE VI
- 家族構成 : 夫の両親、夫、息子(結婚済、別所帯)、娘(県外で一人暮らし) キーパーソンは夫。
- 住居環境 : 2階建ての一戸建て。A様ご夫婦の住居スペースは2階、キッチンは1階にある。家の階段の蹴上は22.5cm、踏面は22.5cm。(学校などの公共施設は蹴上げが18cm以下、踏面が26cm以上なので急であることがわかる。)
- サービス利用状況 : デイサービス 週2回(7-9利用)

介入経過(デイサービス)の流れ



デイサービスの介入ポイント

A様のデマンズ

夫のために2階の部屋に食べ物を持って行ってあげたい。



家族のデマンズ(夫)

本人の思いを大切にして、やりたいようにやってほしい。



ニーズ

患側の右上肢の評価とアプローチ、階段昇降の評価とアプローチ、用具の活用と提案を行う。



ホープ目標

- ①患側の手指へのアプローチを行い、手指の残存機能をより生かす。
- ②歩行訓練にて立位バランスの向上、下肢筋力向上を図る。
- ③自力で2階に飲み物の入ったマグカップを持って行く。

~1日のメニュー~

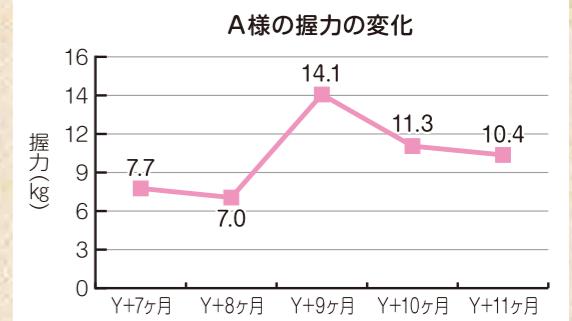
- | | | | |
|----------------------------|----------------------|---------------------|----------------------|
| イメージトレーニング
↓
ミラーボックス | 感覚入力
↓
軍手マッサージ | あたため
↓
ホットパック | 歩行訓練
↓
サーキット歩行 |
|----------------------------|----------------------|---------------------|----------------------|

考察・まとめ(振り返り)

今回の事例を通して、まずスタッフがその方の存在意義に目を向ける重要性を痛感しました。アプローチを通して、より親密な関係を築くことで、より多くの要望をヒアリングすることが可能となり、ご利用者様の更なる可能性に気付くことができると感じました。

また、「できた」という達成感や時間の共有を繰り返すことは、A様だけでなく、スタッフのモチベーションアップにも繋がりました。

加えて、A様の精神的・身体的緊張感を和らげ、リラックスできる環境づくりのためには、やはりチームケアが大切だと実感しました。多職種を巻き込み、チーム全体でA様の目標に一歩近づくサポートを今後も継続していくたいと思います。



提供ポイント

- ① まずスタッフがその方の存在役割・存在意義に目を向ける。
- ② 自宅訪問し、住環境の課題を分析し、目標を立てる。
- ③ 必要となる能力に向け、個別の機能訓練プログラムを提供。
- ④ ご利用者様の思いに、多職種チームでサポートを行う。